

「子どものいる家庭の生活と意識に関する調査」 結果報告

令和2年3月

朝来市健康福祉部社会福祉課

1 調査の概要	
調査名称	子どものいる家庭の生活と意識に関する調査
実施主体	朝来市
対象世帯	18歳未満の子どものいる世帯：2,528世帯
回収率等	回収率：40.0%、回収数：1,010部
配布等方法	学校・園を通じ、保護者に配布又は郵送で配布し、学校・園又は郵送により回収
実施期間	令和元年12月～令和2年1月
調査項目 調査結果	・調査項目については「1 世帯のこと」、「2 仕事と世帯収入」、「3 子育てや教育」、「4 子どもの生活習慣」、「5 公的制度について」、「6 自由記述」の大きく6つの分類で構成しています。 ・調査結果については、「調査結果項目」、「調査の結果」のとおりです。
その他	・小数点以下を四捨五入しているため、割合の合計が100%にならないものもあります。 ・設問によっては回答が不要な場合や複数回答もありますので合計が回答世帯数、回答率と異なることもあります。 ・それぞれの設問についての結果は別添となります。

2 調査結果項目

1 世帯のことなど

- ・同居人数、住宅形態、困っていることや相談相手について

2 仕事と世帯収入など

- ・仕事の形態、仕事をしていない理由、世帯収入、預貯金、借入金について

3 子育てや教育など

- ・子育てでもっとも大変と感ずること、朝ごはんの用意や食事について、食料や衣服などの購入について、子どもの病院受診について、子どもの進学について、教育に係る経費について、不登校について、塾や通信教育などについて

4 子どもの生活習慣など

- ・歯磨き、お風呂、起床時間、就寝時間、降園・放課後等で一緒に過ごす人、ゲームやスマホを利用する時間、テレビやDVDなどを見ている時間などについて

5 公的制度についてなど

- ・ひとり親家庭、就学援助、児童扶養手当、育児に関する情報の入手方法、支援を拡充すべきと思う制度で子育て支援、生活の支援、仕事の支援について

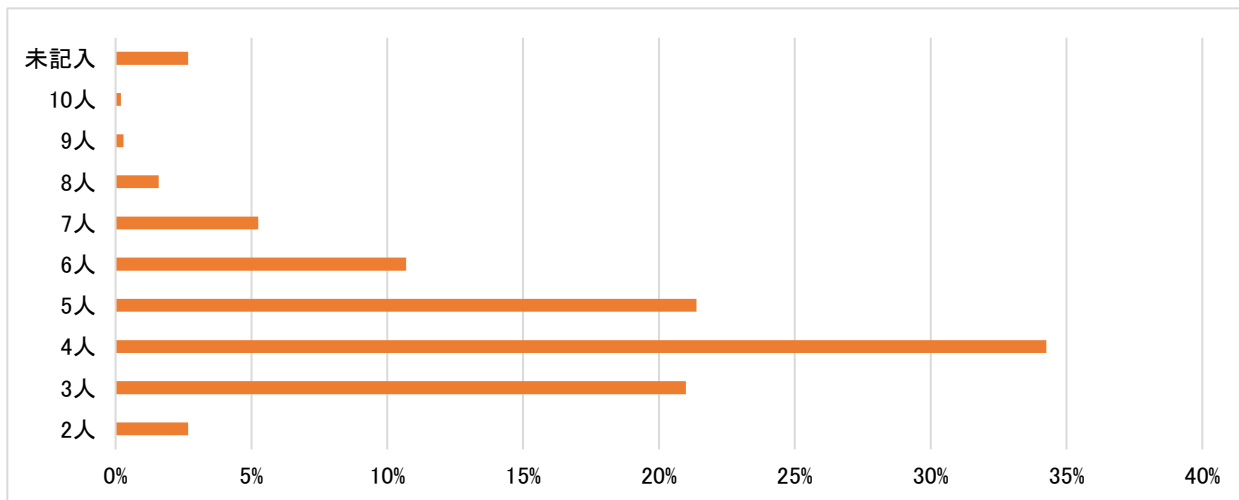
6 自由記述

3 調査の結果

1 世帯のこと

(1)同居人数

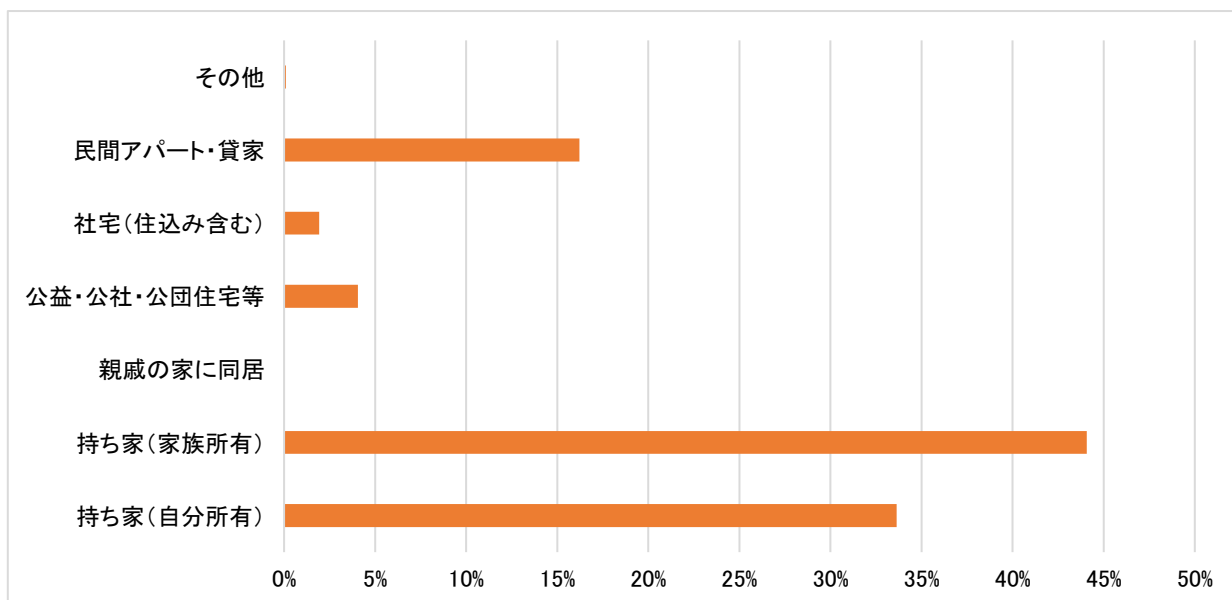
・同居人数をみると、「4人」が約34%と最も多く、次いで「3人」と「5人」がそれぞれ約21%となっています。



	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	未記入
回答数	27	212	346	216	108	53	16	3	2	27
回答率	3%	21%	34%	21%	11%	5%	2%	0%	0%	3%

(2)住宅形態

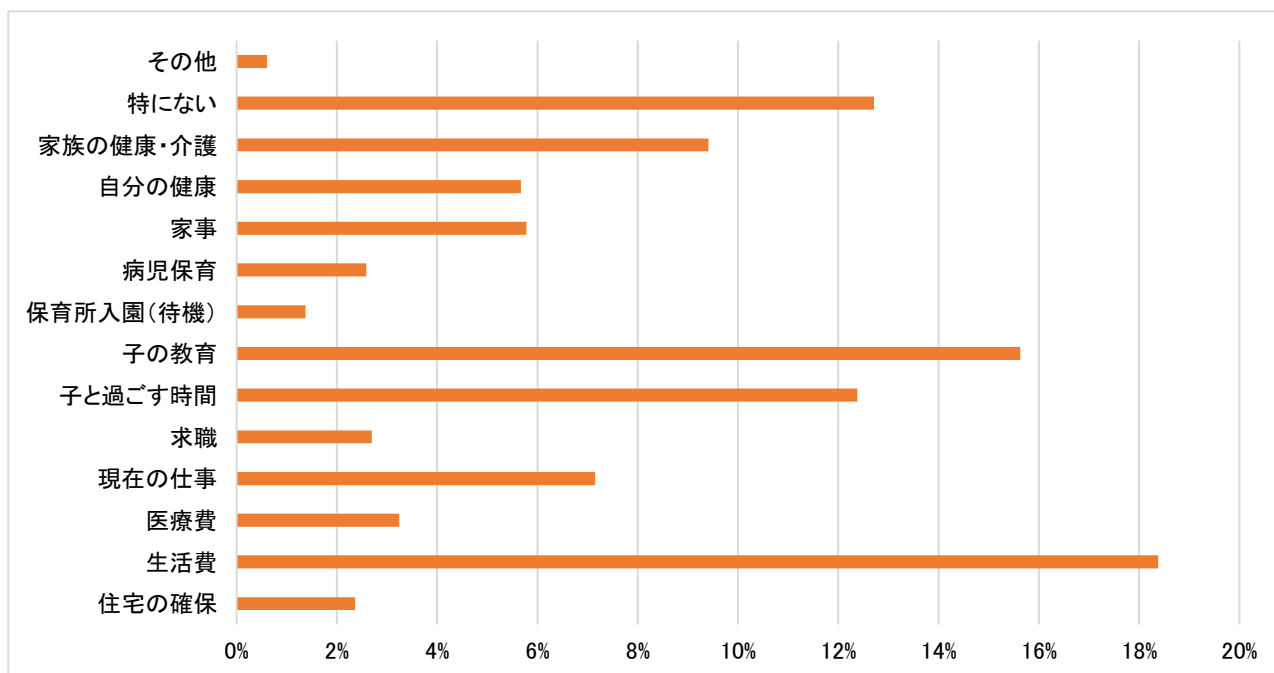
・住宅をみると、「持ち家（家族所有）」が約44%、次に「持ち家（自己所有）」が約34%となっており、合わせて約78%となっています。「民間アパート・貸家」は約16%となっています。



	持ち家(自分所有)	持ち家(家族所有)	親戚の家に同居	公益・公社・公団住宅等	社宅(住込み含む)	民間アパート・貸家	その他
回答数	332	435	0	40	19	160	1
回答率	34%	44%	0%	4%	2%	16%	0%

(3) 困っていること

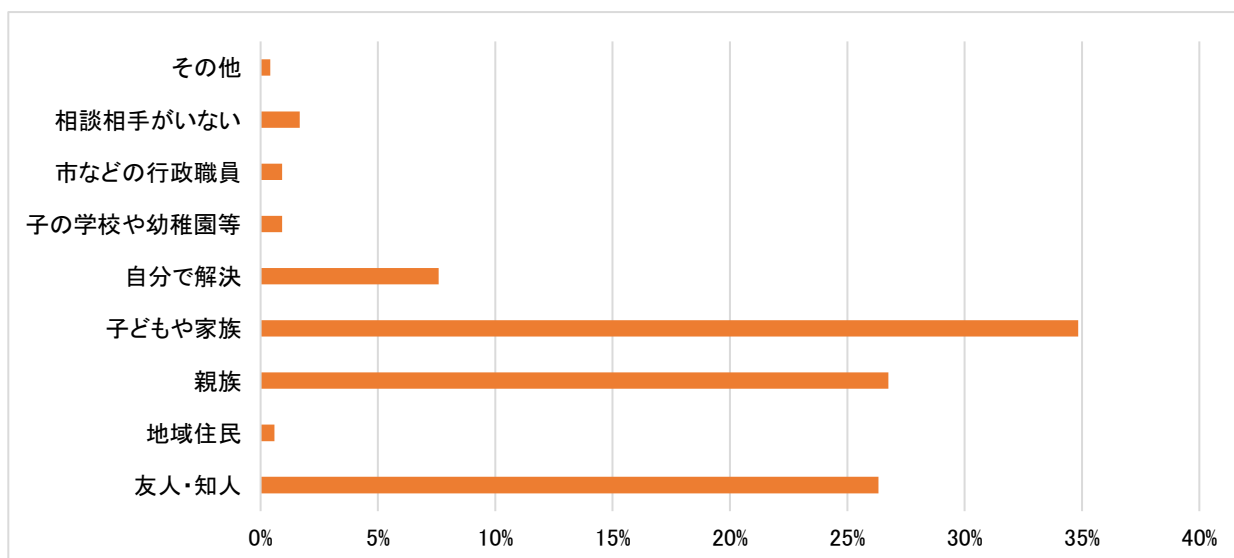
- ・困っていることについてをみると、最も多いのは「生活費」で約18%、次に「子の教育」が約16%、「子と過ごす時間」が約12%と続いています。「特にない」も約13%あります。



	住宅の確保	生活費	医療費	現在の仕事	求職	子と過ごす時間	子の教育	保育所入園(待機)	病児保育	家事	自分の健康	家族の健康・介護	特にない	その他
回答数	43	334	59	130	49	225	284	25	47	105	103	171	231	11
回答率	2%	18%	3%	7%	3%	12%	16%	1%	3%	6%	6%	9%	13%	1%

(4) 相談相手

- ・よく相談する相手をみると、最も多いのは「子どもや家族」で約35%、次に「親族」約27%、「知人・友人」が約26%と続いています。「市などの行政職員」は約1%、「相談相手がない」についても約2%あります。



	友人・知人	地域住民	親族	子どもや家族	自分で解決	子の学校や幼稚園等	市などの行政職員	相談相手がない	その他
回答数	316	7	321	418	91	11	11	20	5
回答率	26%	1%	27%	35%	8%	1%	1%	2%	0%

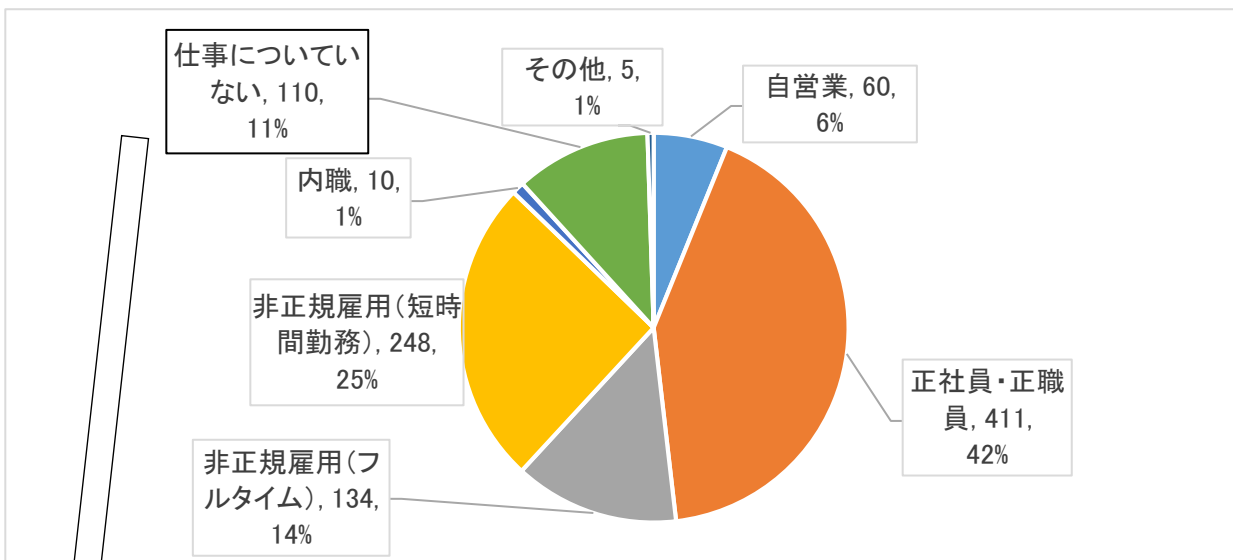
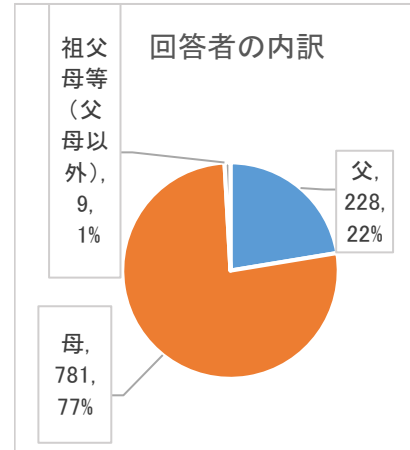
2 仕事と世帯収入について

(1) 回答者の内訳

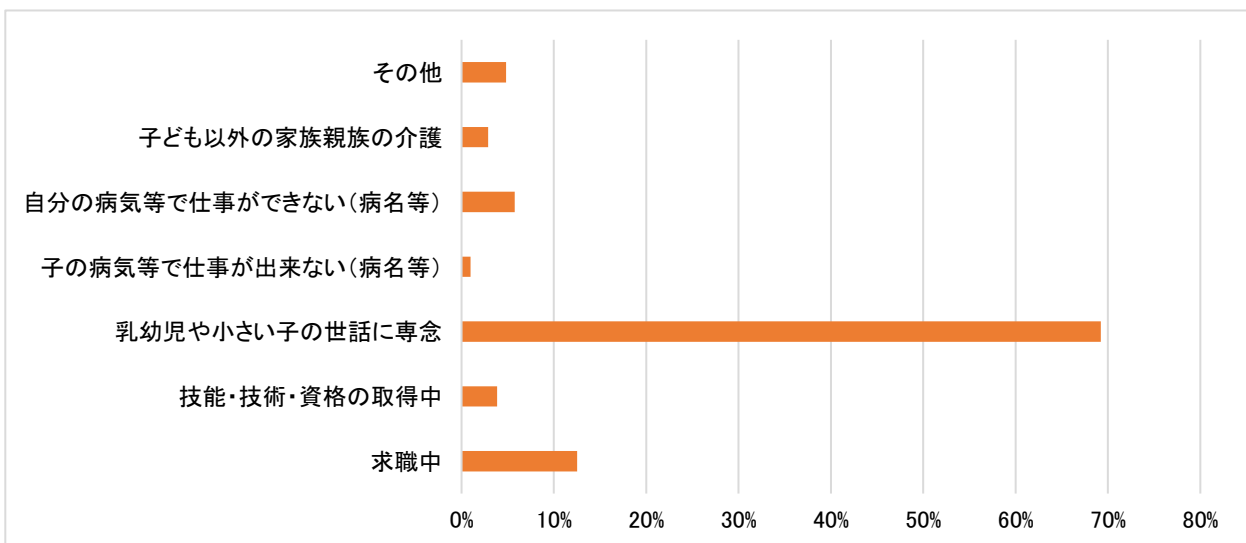
- ・回答者の内訳では、母親が約 77% となっています。

(2) 仕事の形態

- ・仕事の形態をみると、「正社員・正職員」が最も多く約 42%、次に「短時間勤務の非正規雇用」が約 25% となっています。
- ・「仕事についていない方」は約 11% で、仕事についていない理由として、「乳幼児や小さい子の世話を専念」が約 69% と最も多く、次いで「求職中」が約 13% となっています。



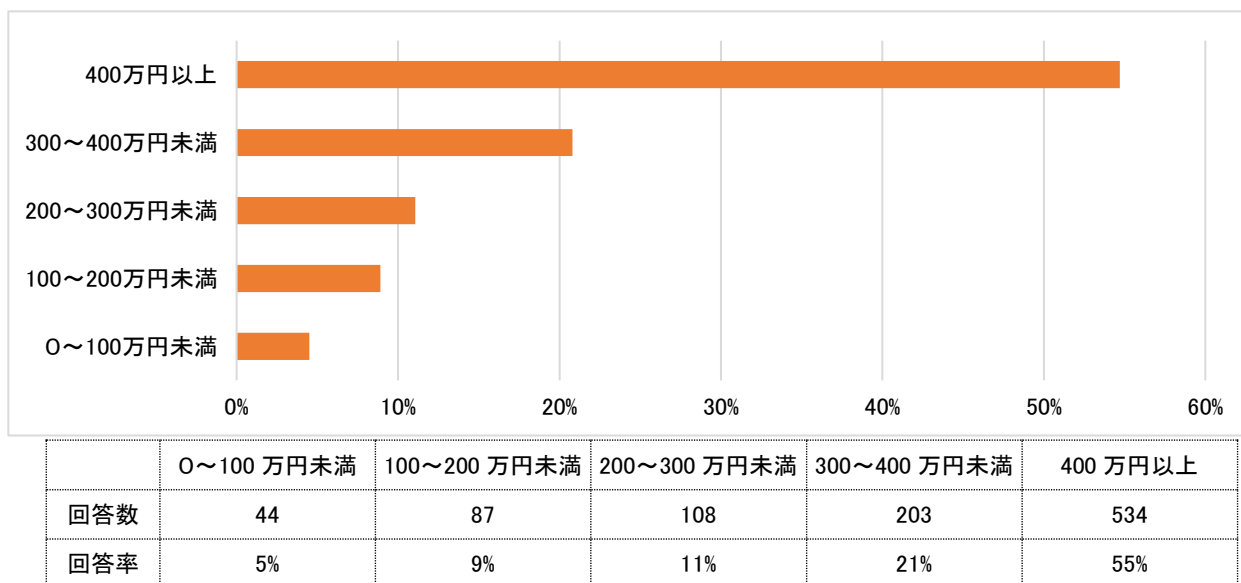
(3) 仕事についていない理由



	求職中	技能・技術・資格の取得中	乳幼児や小さい子の世事に専念	子の病気等で仕事が出来ない(病名等)	自分の病気等で仕事ができない(病名等)	子ども以外の家族親族の介護	その他
回答数	13	4	72	1	6	3	5
回答率	13%	4%	69%	1%	6%	3%	5%

(4) 世帯収入

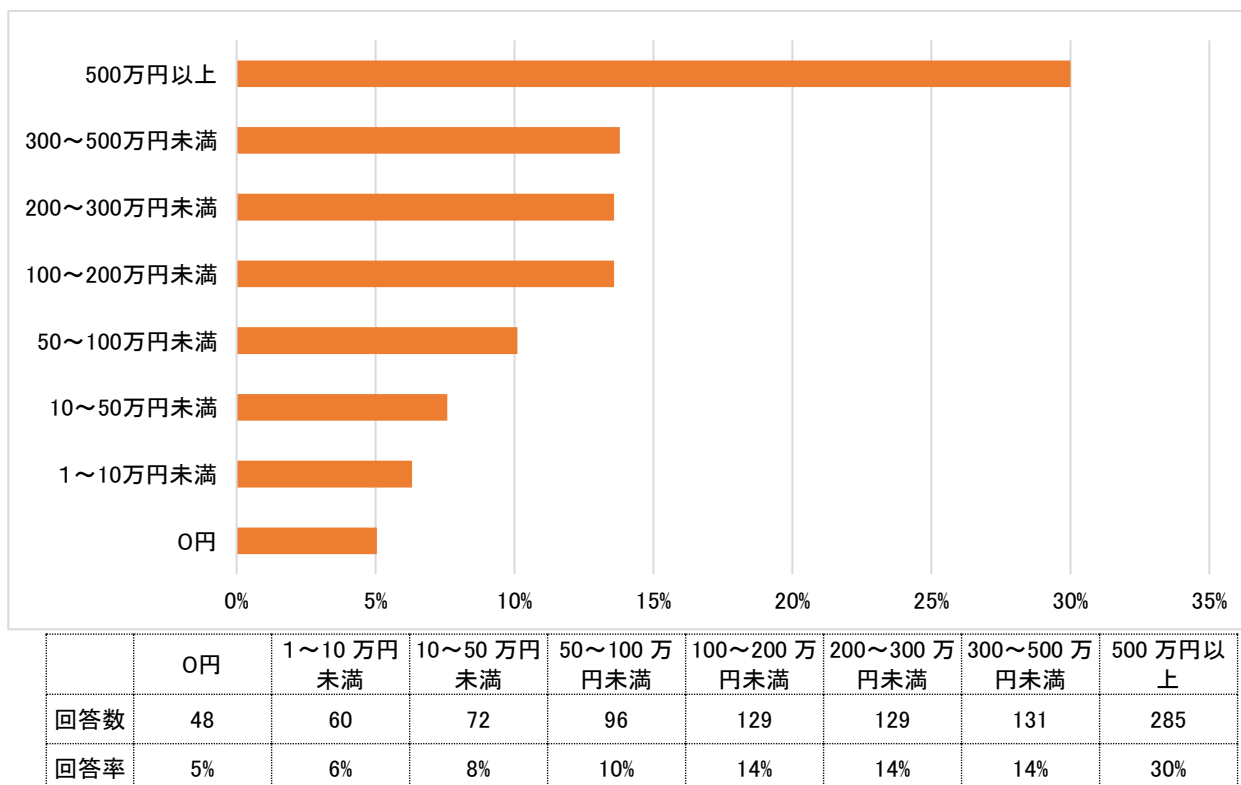
- ・世帯収入をみると、「400万円以上」が約55%と半数以上となっており、「0～100万円未満」が約5%、「100～200万円未満」が約9%、「200～300万円未満」が約11%、「300～400万円未満」が約21%となっています。



(5) 預貯金の状況

- ・預貯金の状況をみると、全世帯で「預貯金がある」は、約95%あり、そのうち「500万円以上」が最も多く約30%となっています。一方、預貯金がない「0円」の世帯も約5%あります。

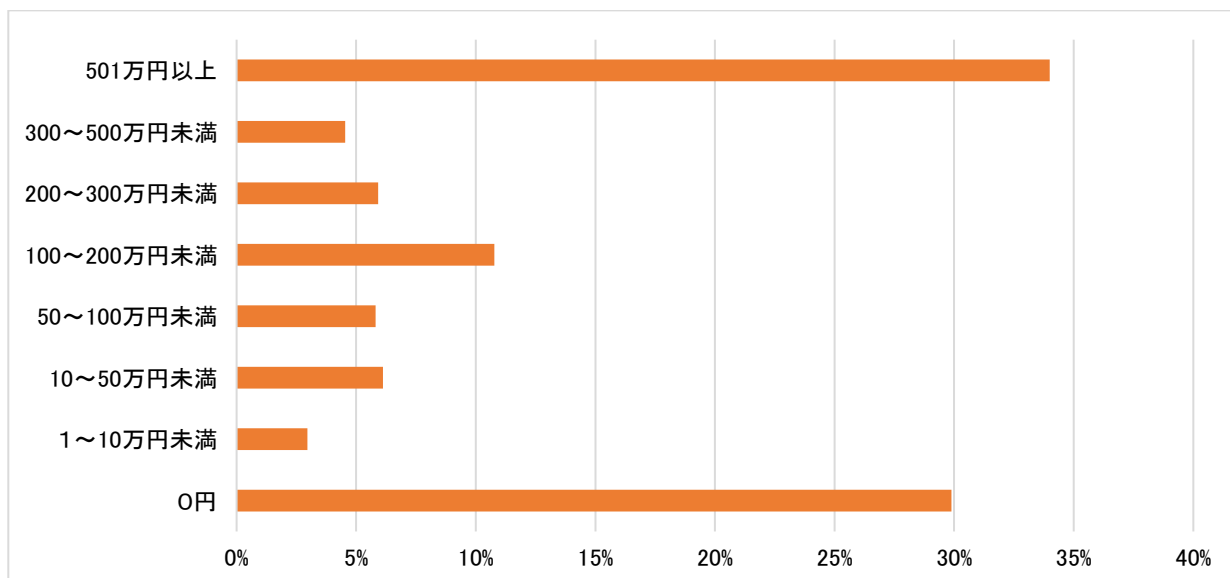
平成28年国民生活基礎調査（厚労省）では、児童のいる世帯で約42%が「500万円以上」預貯金があり、預貯金がない世帯は約15%となっており、朝来市の場合は全国調査よりも預貯金がある世帯が多いと言えます。



(6)借入金の状況

- ・借入金の状況をみると、「501万円以上」が34%と最も多く、次に「0円」で約30%となっています。

平成28年国民生活基礎調査（厚労省）では、児童のいる世帯で約42%が「501万円以上」借入金があり、借入金がない世帯は約42%です。

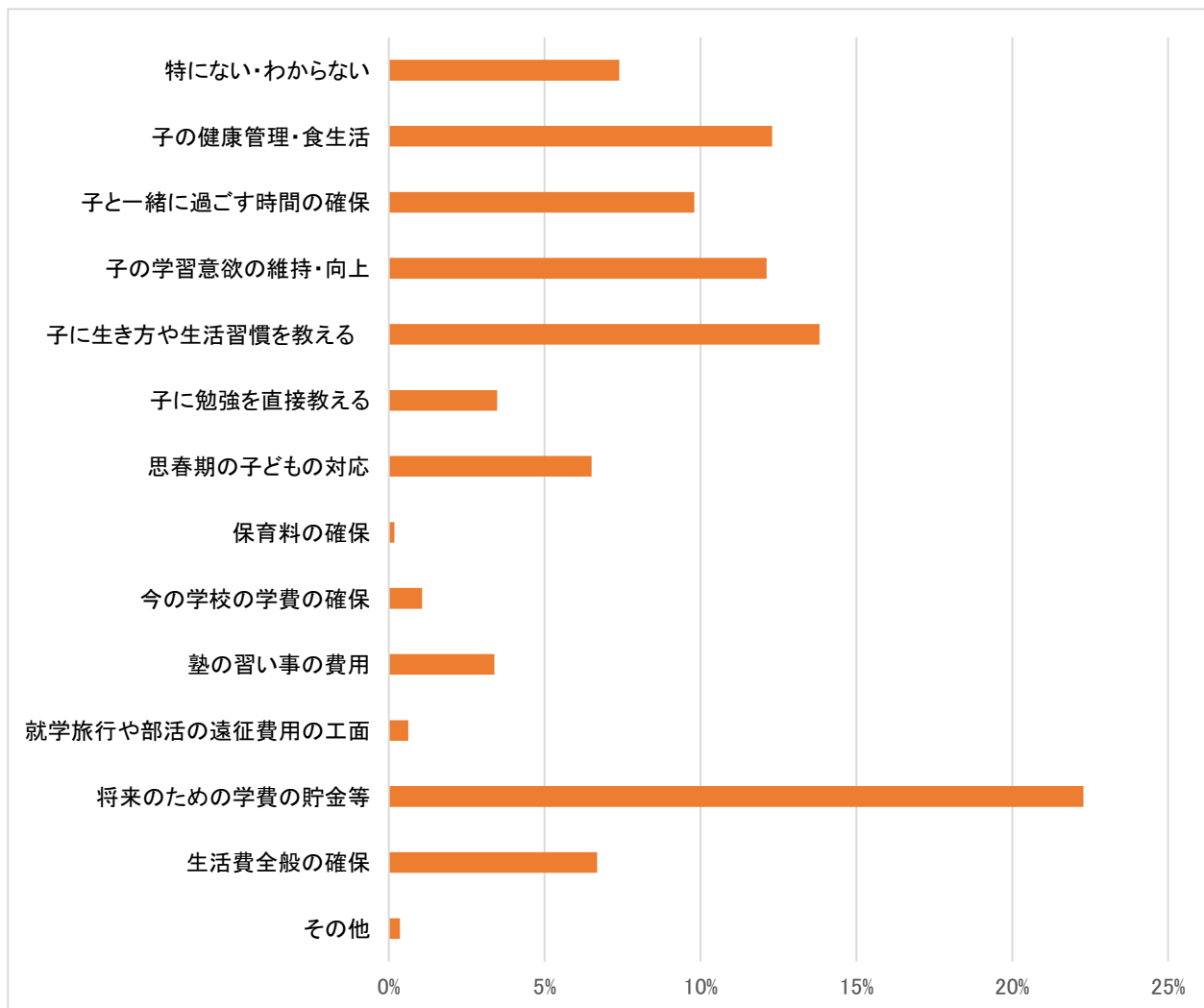


	0円	1~10万円未満	10~50万円未満	50~100万円未満	100~200万円未満	200~300万円未満	300~500万円未満	500万円以上
回答数	283	28	58	55	102	56	43	322
回答率	30%	3%	6%	6%	11%	6%	5%	34%

3 子育てや教育など

(1) 子育てでもっとも大変と感じること

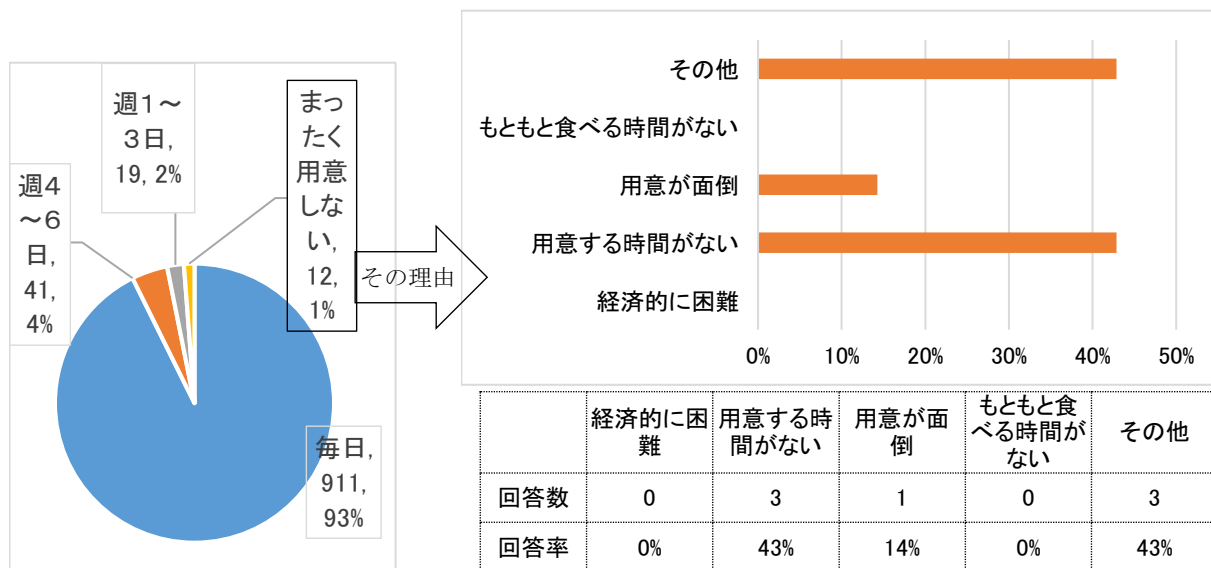
・子育てでもっとも大変と感じることをみると、「将来のための学費の貯金等」で約 22%、次に「子に生き方や生活習慣を教える」が約 14%と、次いで「子の健康管理・食生活」、「子の学習意欲の維持・向上」がそれぞれ約 12%となっています。



	特にない・わからない	子の健康管理・食生活	子と一緒に過ごす時間の確保	子の学習意欲の維持・向上	子に生き方や生活習慣を教える	子に勉強を直接教える	思春期の子どもへの対応	保育料の確保	今の学校の学費の確保	塾の習い事の費用	就学旅行や部活の遠征費用の工面	将来のための学費の貯金等	生活費全般の確保	その他
回答数	83	138	110	136	155	39	73	2	12	38	7	250	75	4
回答率	7%	12%	10%	12%	14%	3%	7%	0%	1%	3%	1%	22%	7%	0%

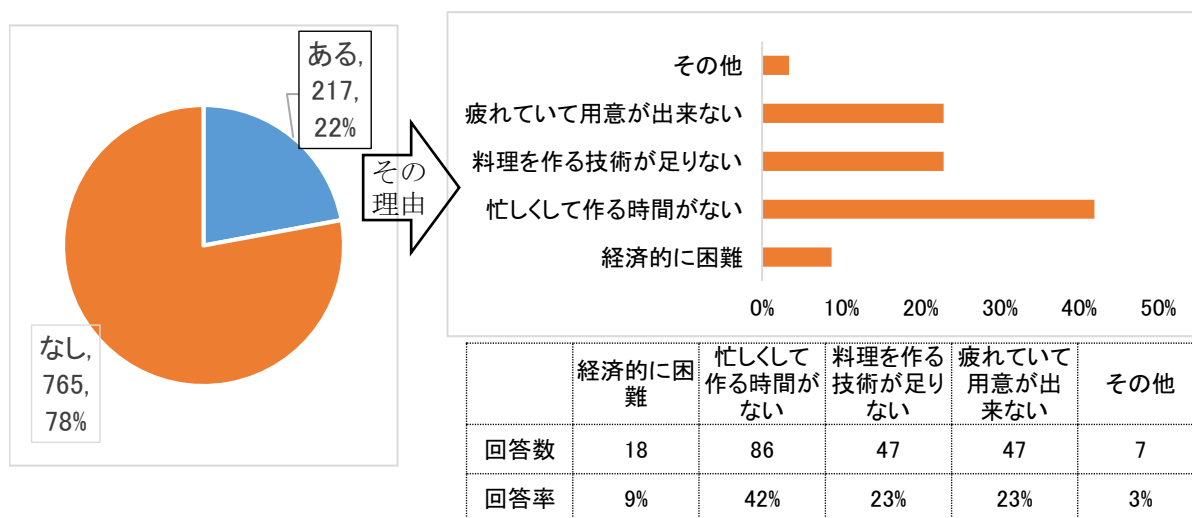
(2) 朝ごはんの用意

- ・朝ごはんの用意は、「ほぼ毎日」が約93%で、「まったく用意しない」も約1%あります。
- ・まったく用意しない理由としては、「用意する時間がない」が約43%となっています。



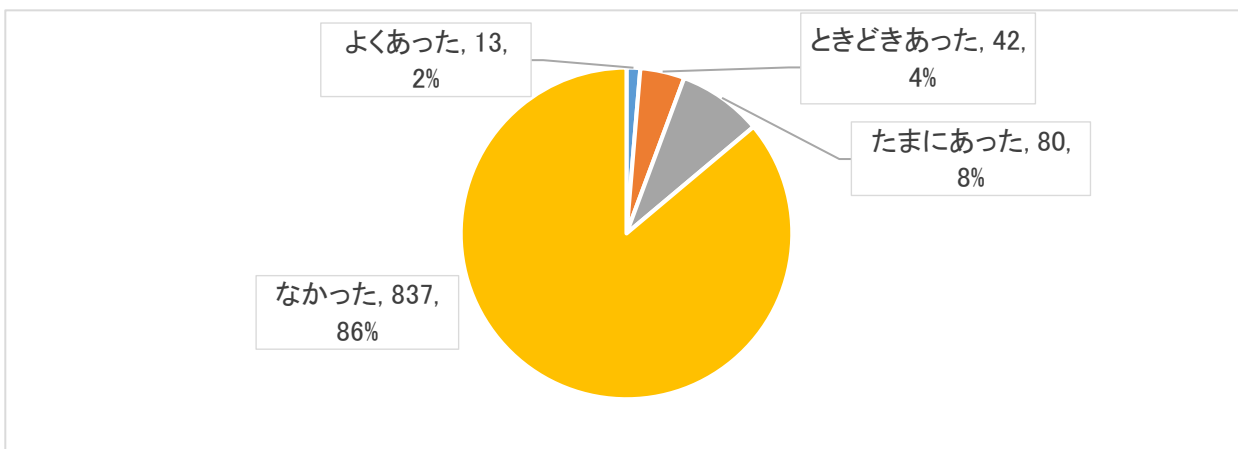
(3) 食事について

- ・子どもに1日3回、十分な食事を食べさせることを難しく感じるものが「ない」世帯は約78%で、「ある」世帯は約22%あります。
- ・その理由として最も多いのが、「忙しくて作る時間がない」が約42%で、「疲れていて用意ができない」、「料理を作る技術が足りない」がそれぞれ約23%となっています。



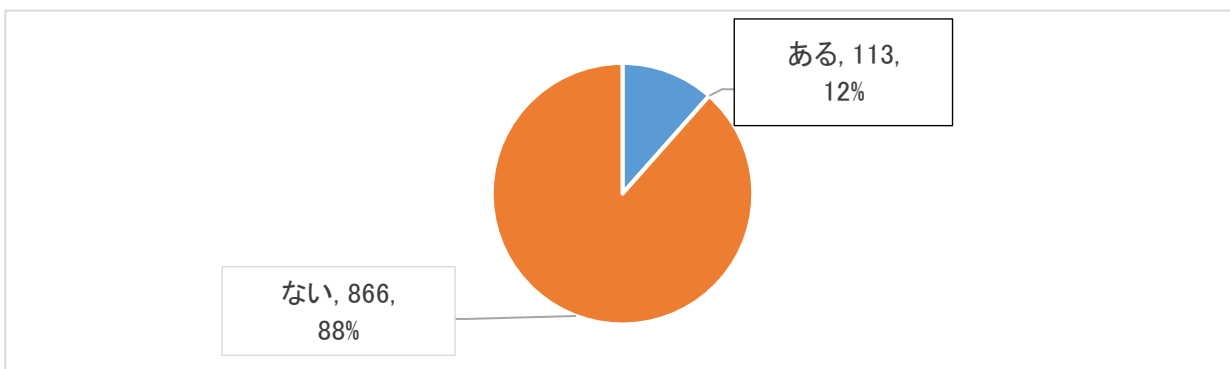
(4) 食料や衣服などの購入

- 過去1年間で、経済的な理由により家族が必要とする食料や衣服などを購入できなかったことがあったかどうかをみると、「なかった」が約86%と最も多く、「たまにあった」が約8%、「ときどきあった」が約4%、「よくあった」が約2%と「あった」の合計は約14%となっています。



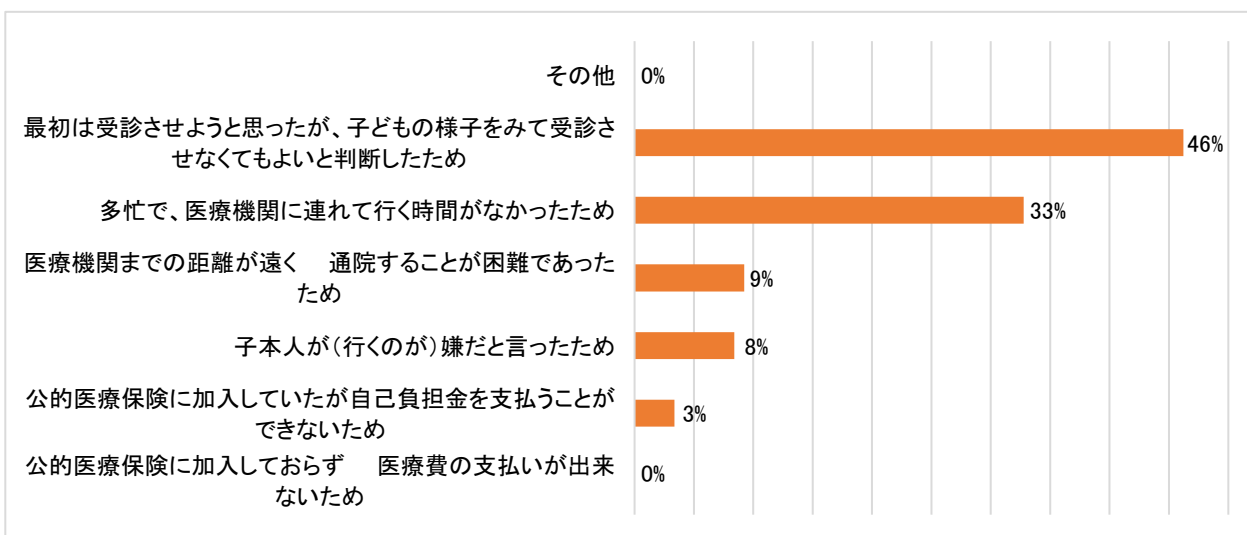
(5) 子どもの病院受診

- 子どもを病院受診させたほうが良いと思ったが、受診させなかったことがあったかどうかをみると「なかった」世帯が約88%で、「あった」世帯は約12%となっています。



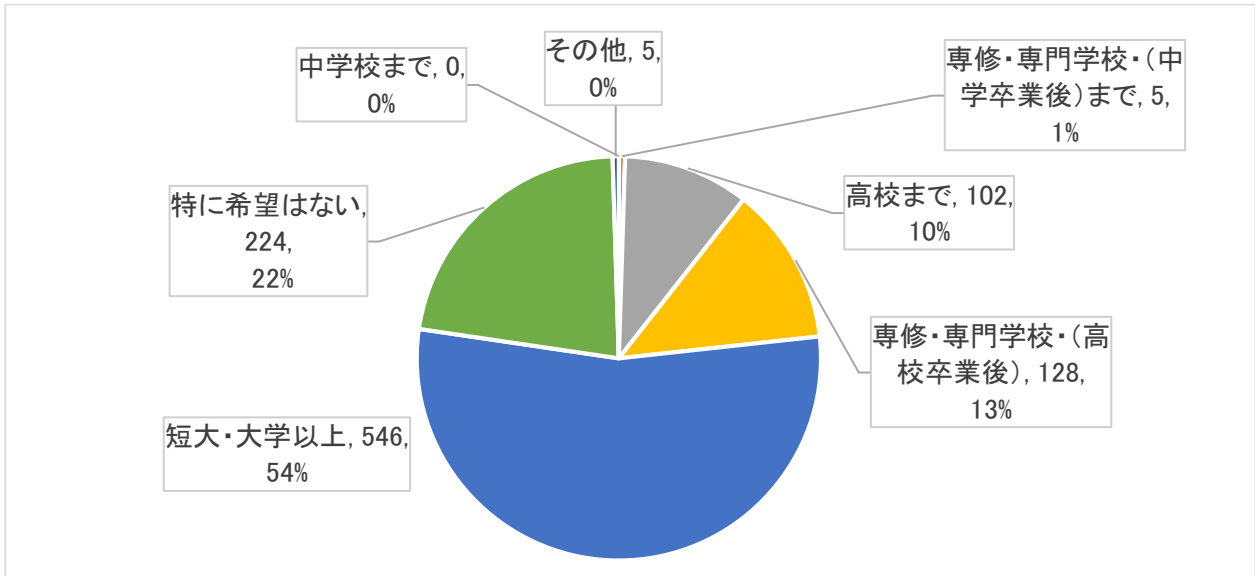
(6) 受診させなかった理由

- 受診させなかった理由で最も多かった理由は、「最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て受診させなくてもよいと判断したため」が約46%で最も多く、次に「多忙で、医療機関に連れていく時間がなかったため」が約33%となっています。



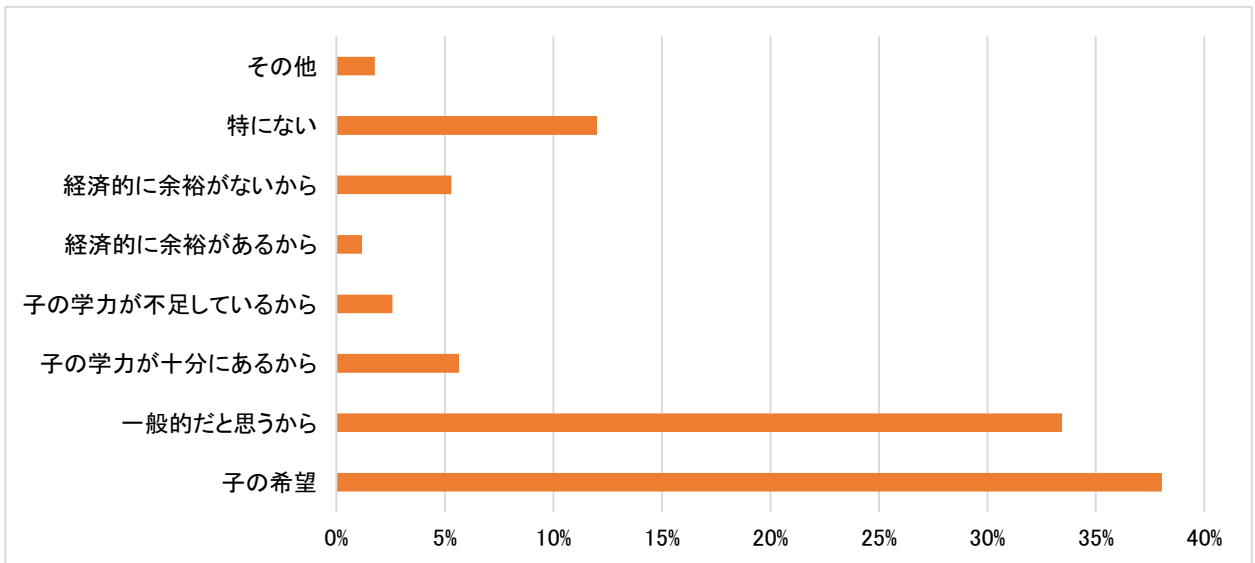
(7) 子どもの進学について

・子どもへの進学希望で最も多いのが、「短大・大学以上」で約 54%、次に「特に希望はない」が約 22%となっています。



(8) 進学希望先の理由

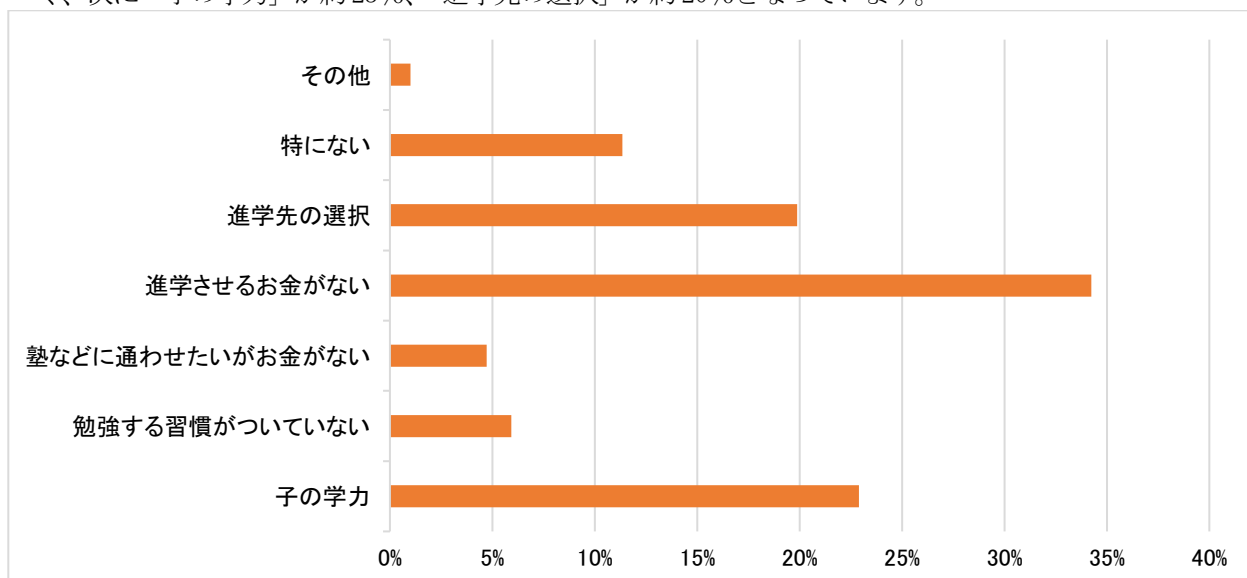
・その理由としては、「子の希望」が約 38%、次に「一般的だと思うから」が約 33%となっています。



	子の希望	一般的だと思 うから	子の学力が 十分にある から	子の学力が 不足してい るから	経済的に余 裕があるか ら	経済的に余 裕がないか ら	特にない	その他
回答数	323	284	48	22	10	45	102	15
回答率	38%	33%	6%	3%	1%	5%	12%	2%

(9)進学の際の最も心配なこと

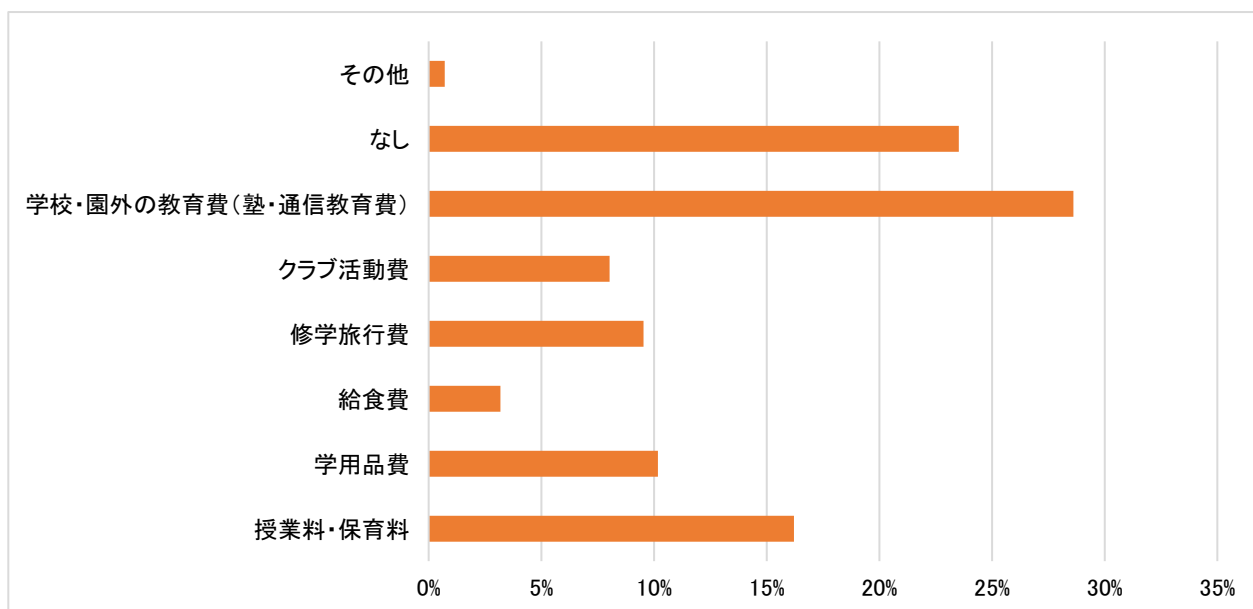
- ・子どもが希望する学校まで進学させる際の最も心配なことは「進学させるお金がない」が約 34%と最も多く、次に「子の学力」が約 23%、「進学先の選択」が約 20%となっています。



	子の学力	勉強する習慣がついていない	塾などに通わせたいがお金がない	進学させるお金がない	進学先の選択	特になし	その他
回答数	228	59	47	341	198	113	10
回答率	23%	6%	5%	34%	20%	11%	1%

(10)教育に係る経費について

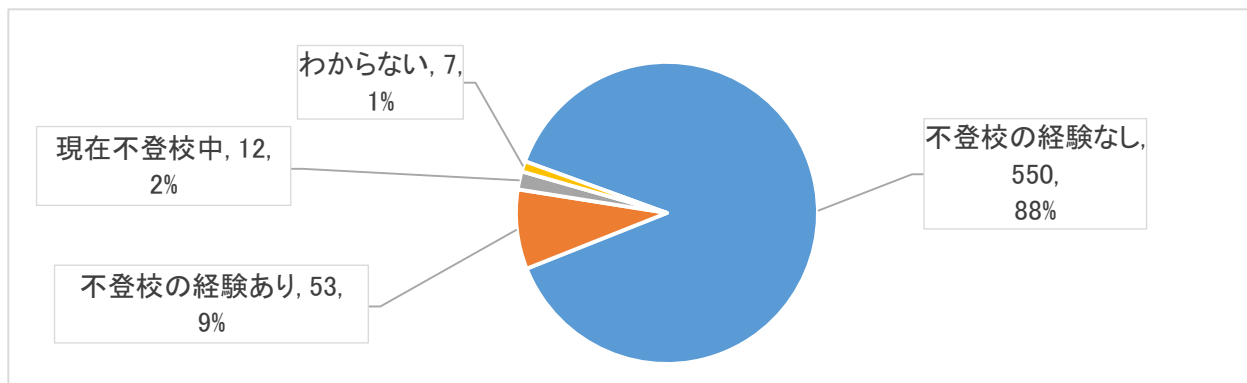
- ・子どもの教育にかかる経費について、負担が大きいと感じることをみると、最も多いのが「学校・園外の教育費（塾・通信教育費）」で約 29%、次に「なし」が約 24%、「授業料・保育料」が約 16%と続いています。



	授業料・保育料	学用品費	給食費	修学旅行費	クラブ活動費	学校・園外の教育費(塾・通信教育費)	なし	その他
回答数	204	128	40	120	101	360	296	9
回答率	16%	10%	3%	10%	8%	29%	24%	1%

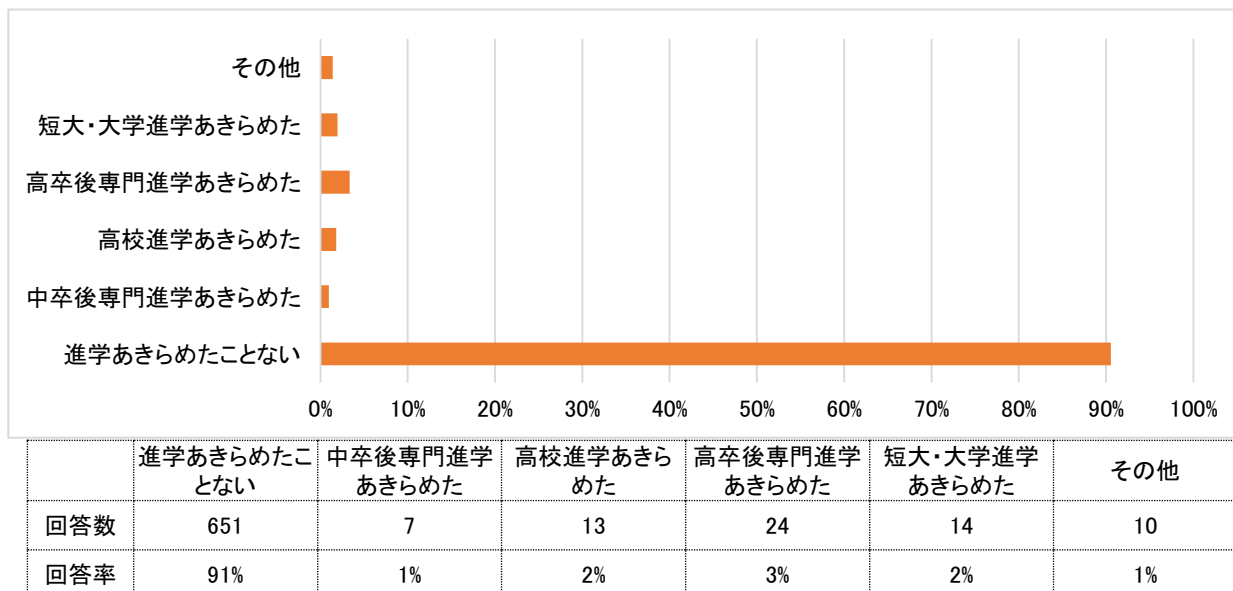
(11) 不登校について

- ・不登校を経験したことがある子どもがあるかどうかをみると、「経験なし」が約 88%で、「経験あり」が約 9%、「現在不登校中」は約 2%となっています。



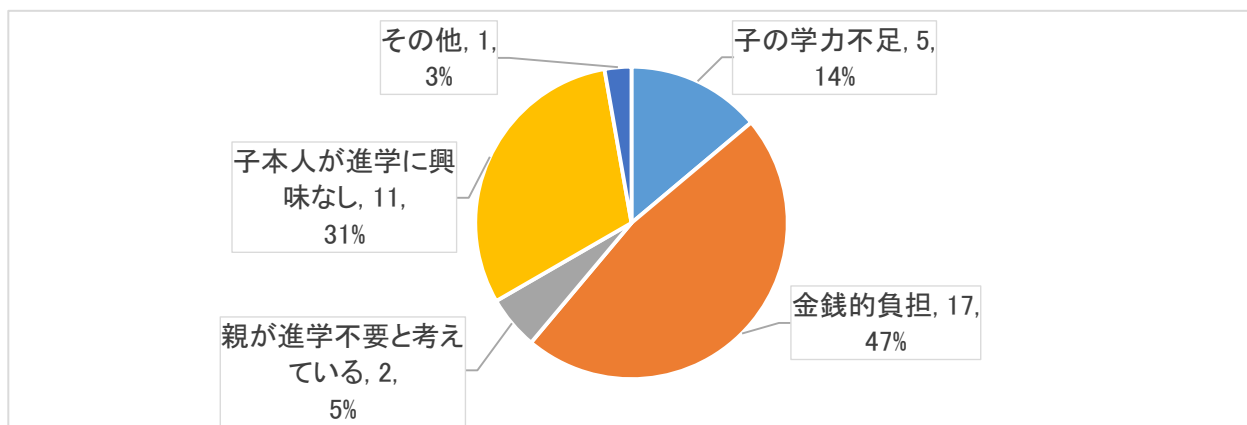
(12) 進学について

- ・子どもが進学をあきらめたことがあるかどうかをみると、「進学あきらめたことない」が約 91%と大半を占めますが、「高校卒業後専門学校進学あきらめた」約 3%、「短大・大学進学あきらめた」約 2%、「高校進学あきらめた」約 2%などがあります。



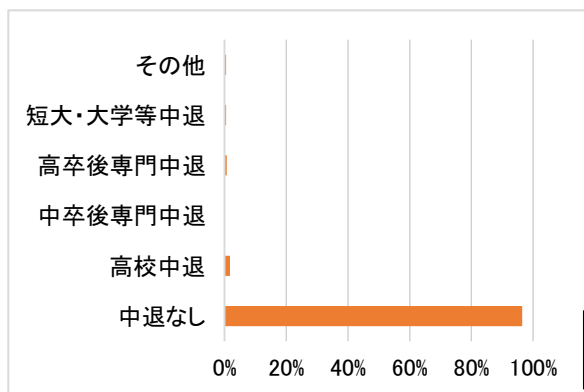
(13) 進学をあきらめた理由

- ・あきらめた理由としては、「金銭的負担」が約 47%と最も多く、「子本人が進学に興味なし」が約 31%、次いで「子の学力不足」が約 14%となっています。



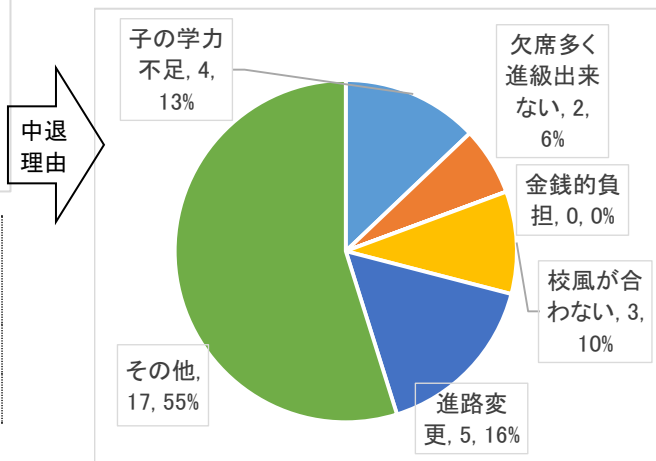
(14)子どもの中退について

・子どもが中退したことがあるかどうかでは、「中退なし」が最も多く約96%となっています。



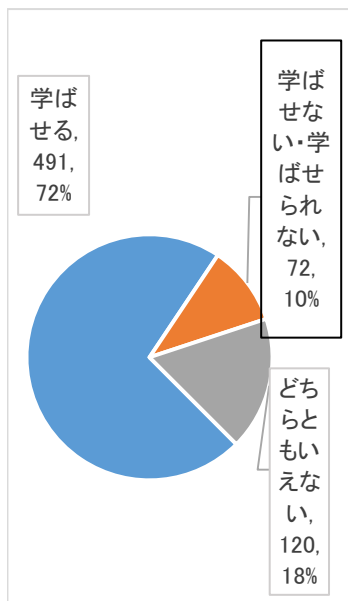
	中退なし	高校中退	中卒後専門中退	高卒後専門中退	短大・大学等中退	その他
回答数	797	14	1	6	4	4
回答率	96%	2%	0%	1%	0%	0%

・中退の理由としては、「その他」が最も多く、「進路変更」約16%、「子の学力不足」約13%、「校風があわない」が約10%となっています。

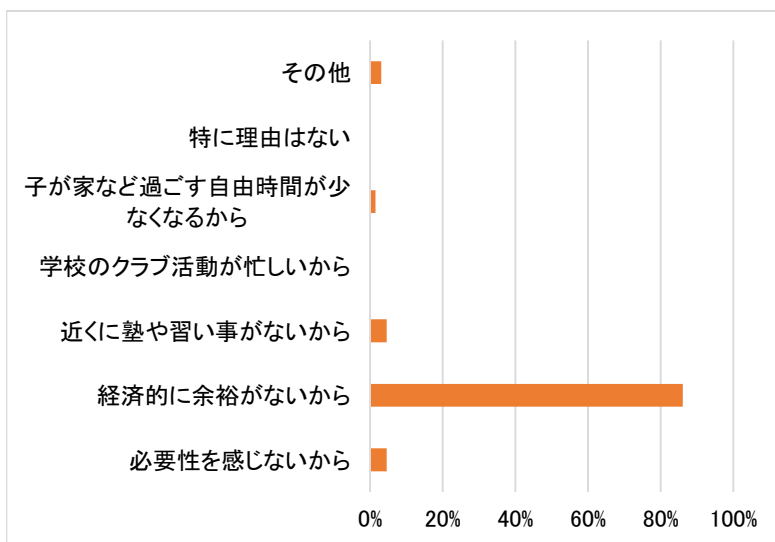


(15)塾や通信教育などについて

・子どもを塾や通信教育などで学ばせるかどうかでは、「学ばせる」が約72%、「どちらともいえない」が約18%、「学ばせない・学ばせられない」が約10%となっています。



・学ばせない・学ばせられない理由として最も多かったのが、「経済的に余裕がないから」が約86%と最も多くなっています。

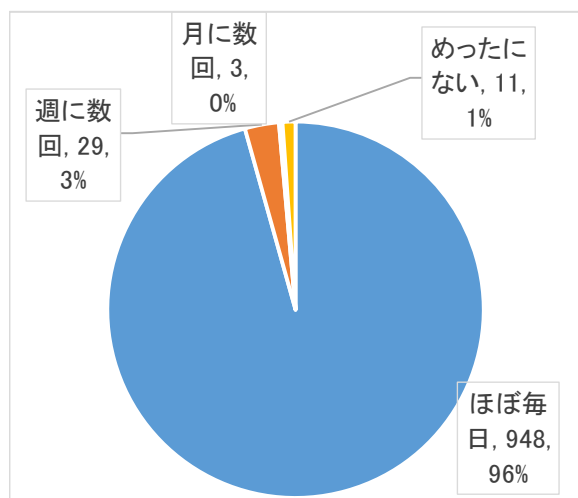


	必要性を感じないから	経済的に余裕がないから	近くに塾や習い事がないから	学校のクラブ活動が忙しいから	子が家など過ごす自由時間が少なくなるから	特に理由はない	その他
回答数	83	138	110	136	155	39	73
回答率	7%	12%	10%	12%	14%	3%	7%

4 子どもの生活習慣

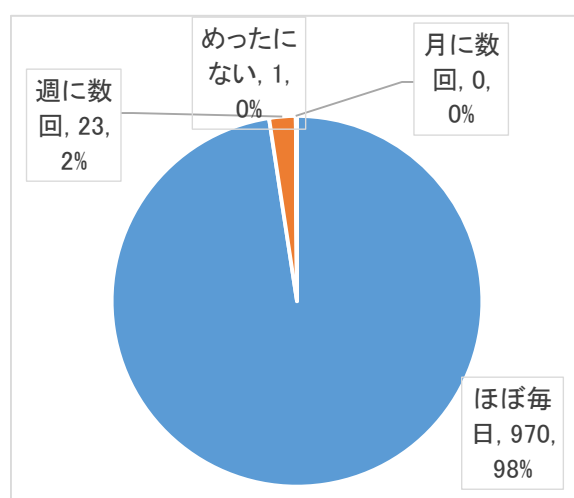
(1) 歯磨き

- ・子どもが歯磨きをしているかをみると、「ほぼ毎日」が約96%となっています。



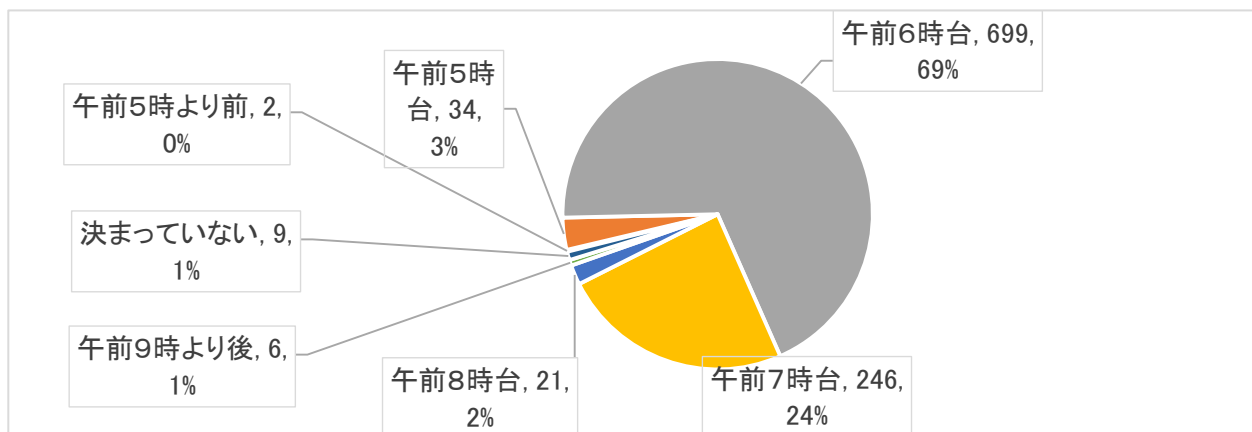
(2) お風呂

- ・子どもがお風呂に入っているかをみると、「ほぼ毎日」が約98%となっています。



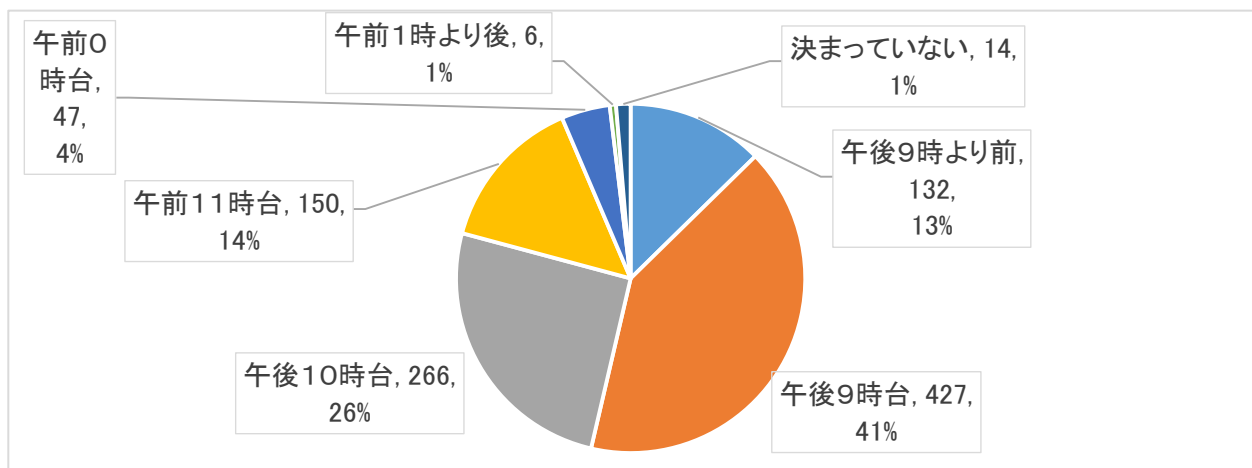
(3) 起床時間

- ・子どもの月曜から金曜の起床時間は、「午前6時台」が約69%と最も多く、次に「午前7時台」が約24%となっています。



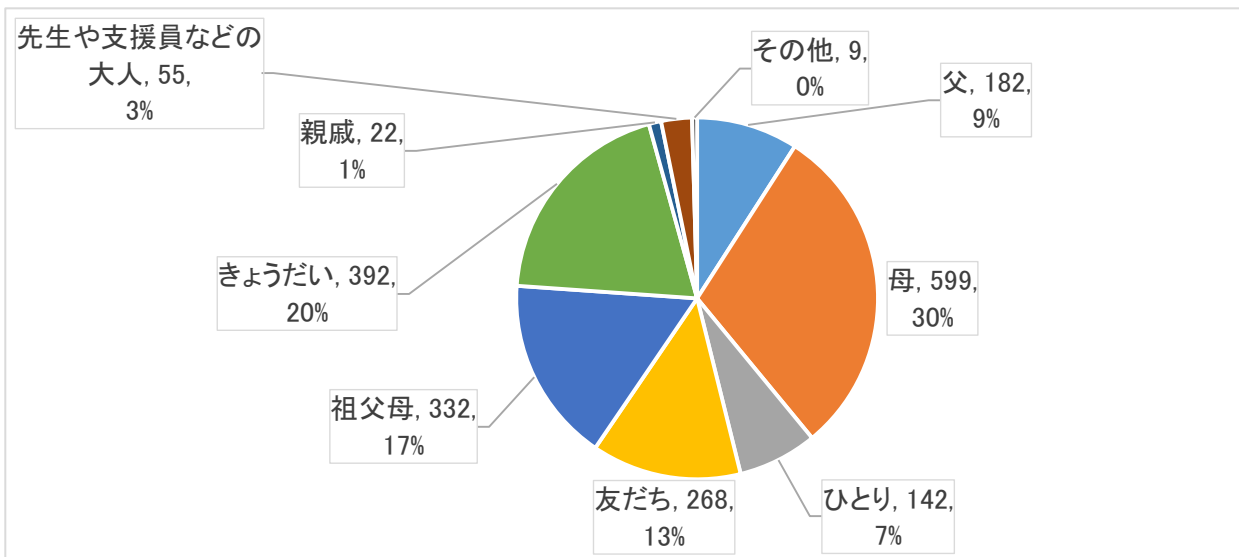
(4) 就寝時間

- ・子どもの月曜から金曜の就寝時間は「午後9時台」が約41%で、次に「午後10時台」が約26%、「午前11時台」が約14%、「午前9時より前」が約13%と続きます。



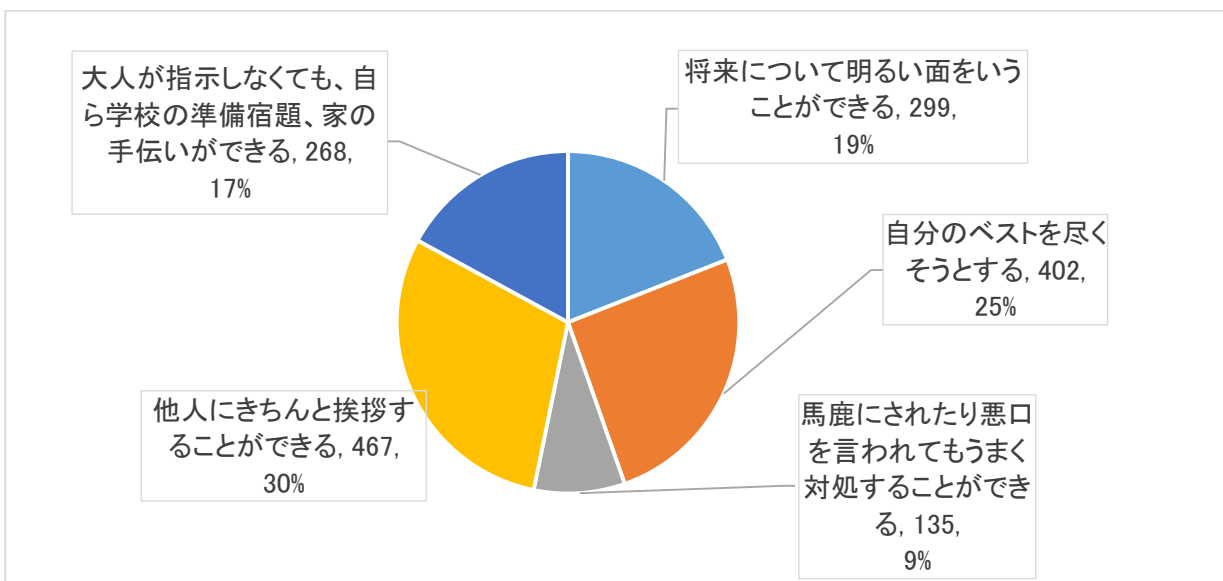
(5)子どもが降園・放課後等に一緒に過ごす人

・子どもが降園・放課後等に一緒に過ごすことが多いのは「母」で約30%となっており、次に「きょうだい」で約20%、「祖父母」約17%、「友だち」約13%、「父」約9%の順になっています。



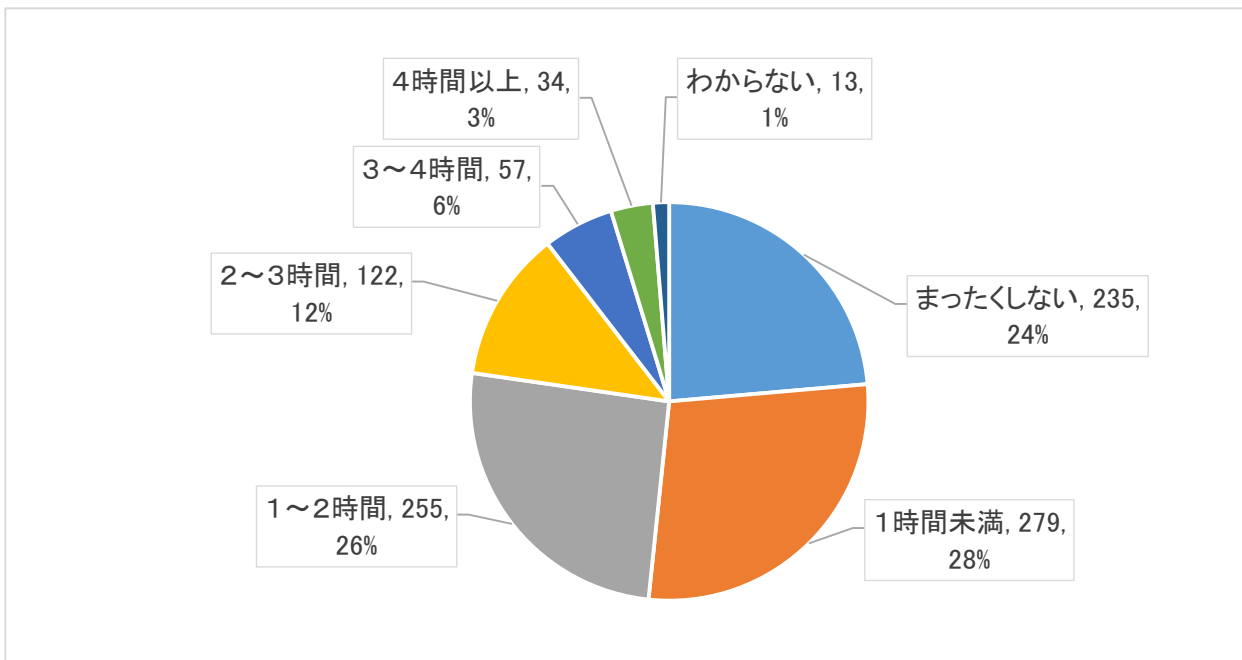
(6)過去6ヶ月の子どもの様子

・過去6ヶ月の子どもの様子として、「他人にきちんと挨拶することができる」が約30%で最も多く、「自分のベストを尽くそうとする」が約25%となっています。



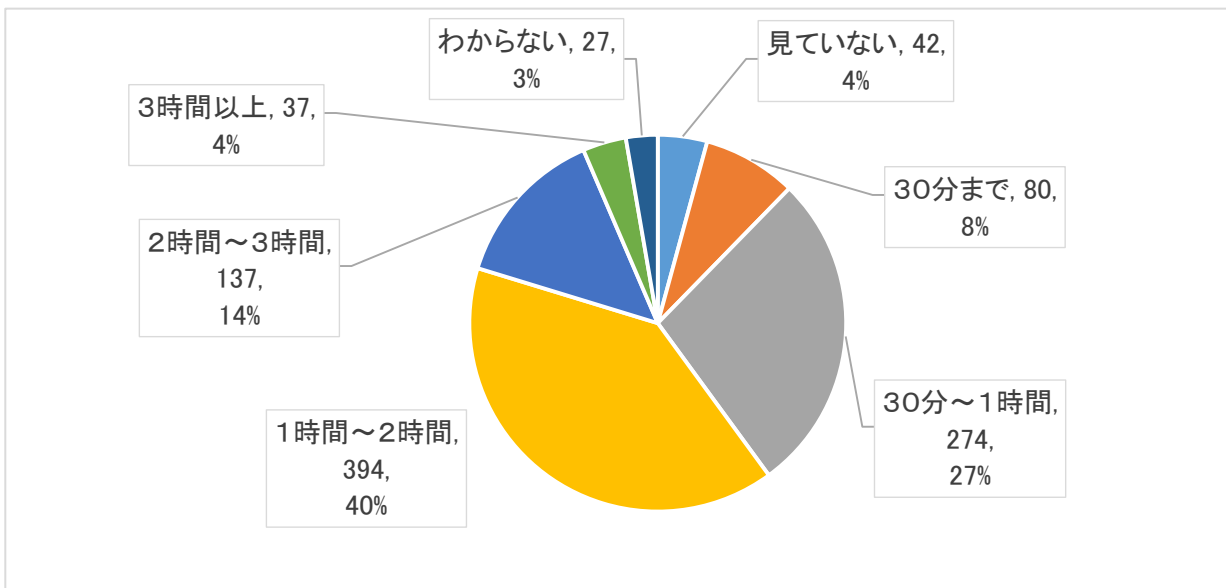
(7)ゲームやスマホを利用する時間

- ・子どもがゲームやスマホを利用する時間は1日「1時間未満」が約28%と最も多く、次に「1～2時間」が約26%、「まったくしない」も約24%あります。



(8)テレビやDVDなどを見ている時間

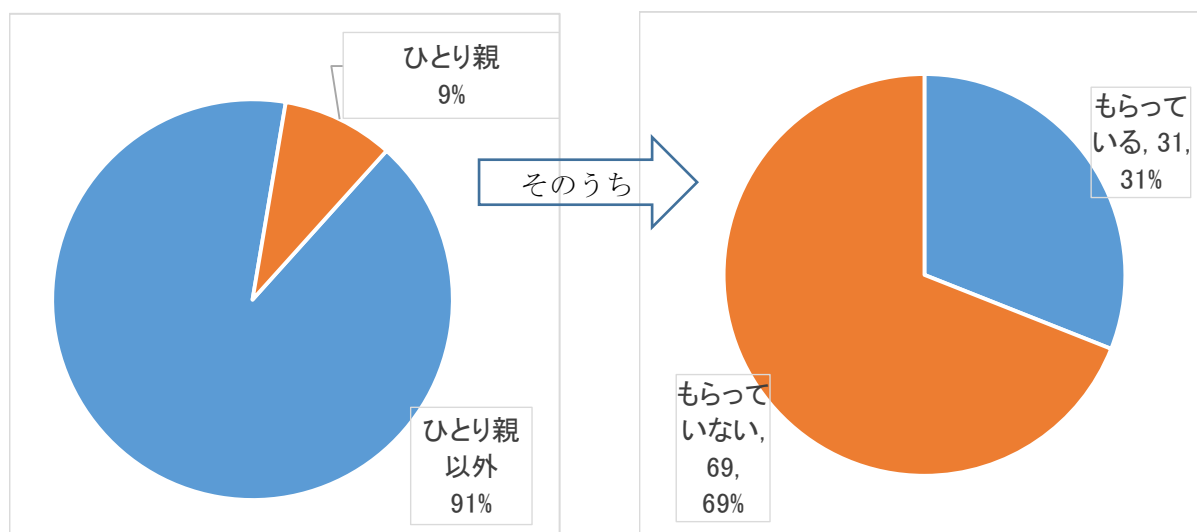
- ・子どもがテレビやDVDなどを見ている時間は「1時間～2時間」が約40%と最も多く、次に「30分～1時間」が約27%となっています。



5 公的制度について

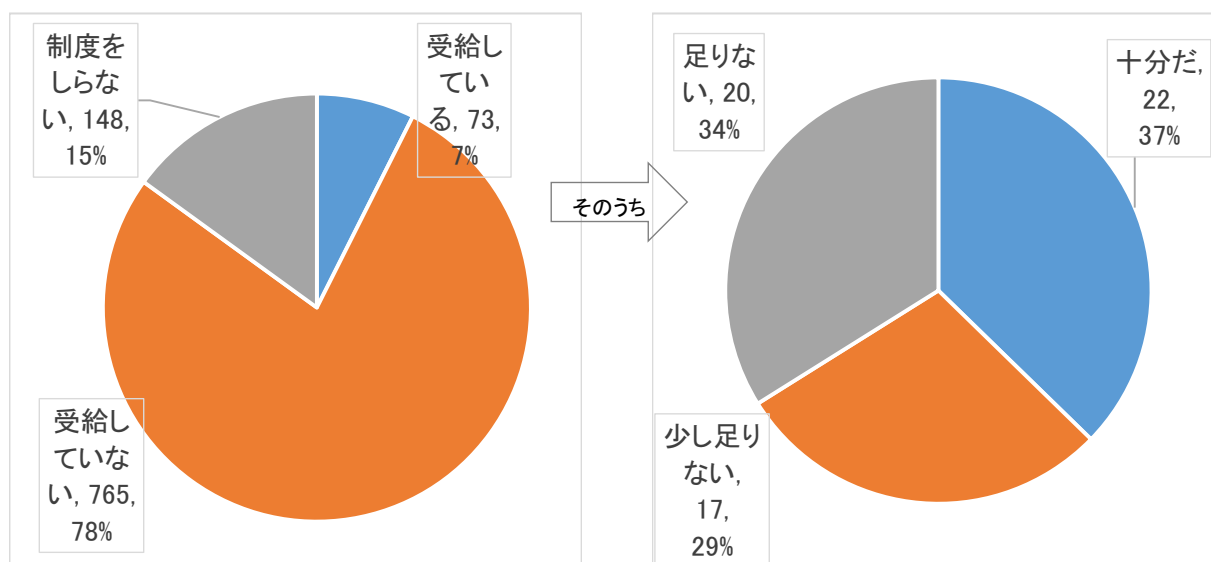
(1)ひとり親家庭

- ひとり親家庭は全体の約9%となっています。そのうち、養育費をもらっている世帯は約31%となっています。



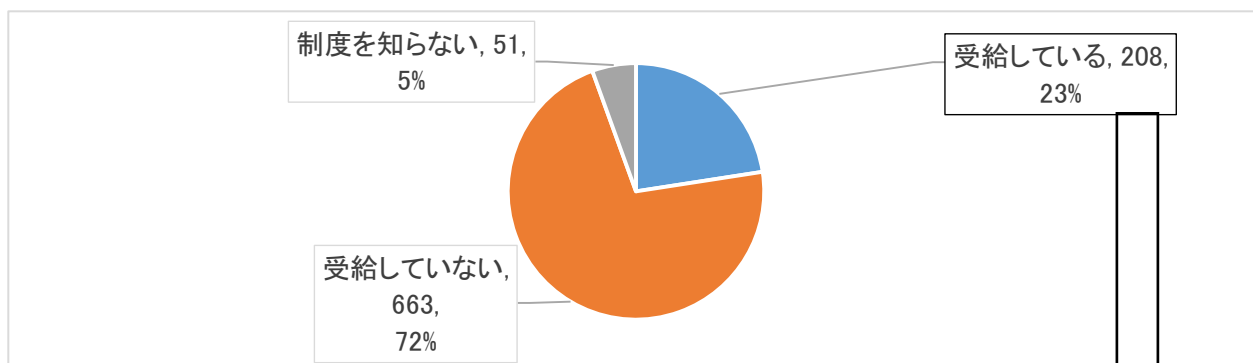
(2)就学援助について

- 就学援助を受給している割合は約7%です。金額については、十分だと感じている割合は約37%で、「足りない」が約34%で、「少し足りない」が約29%となっています。



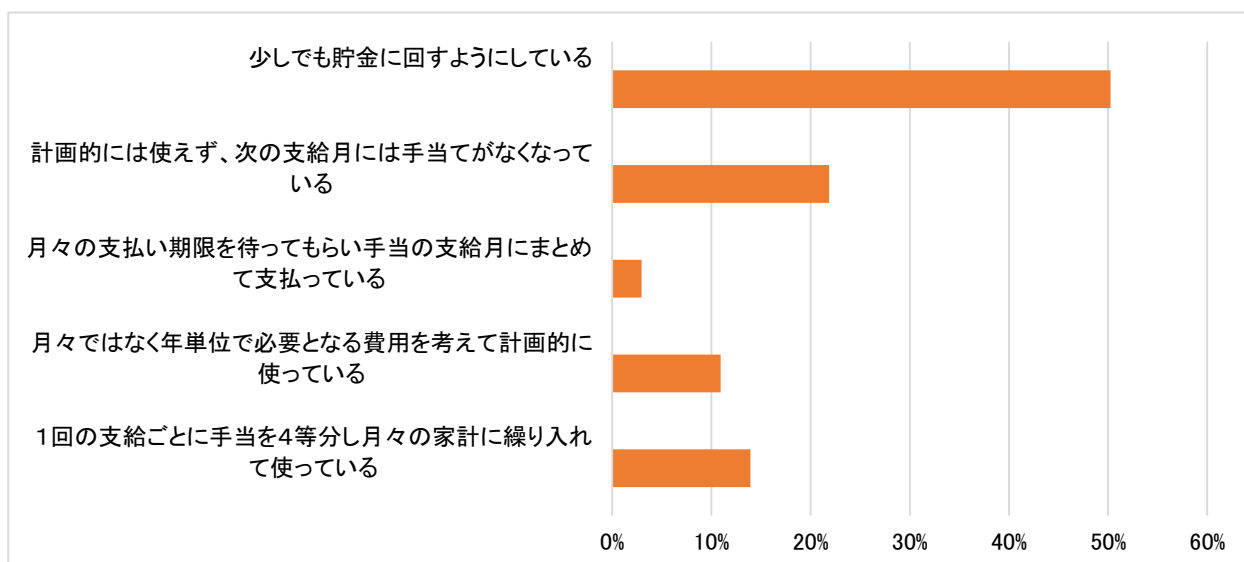
(3) 児童扶養手当について

- 児童扶養手当を受給している割合は約 23%、「制度を知らない」も約 5%あります。



(4) 児童扶養手当をどのように使っているか

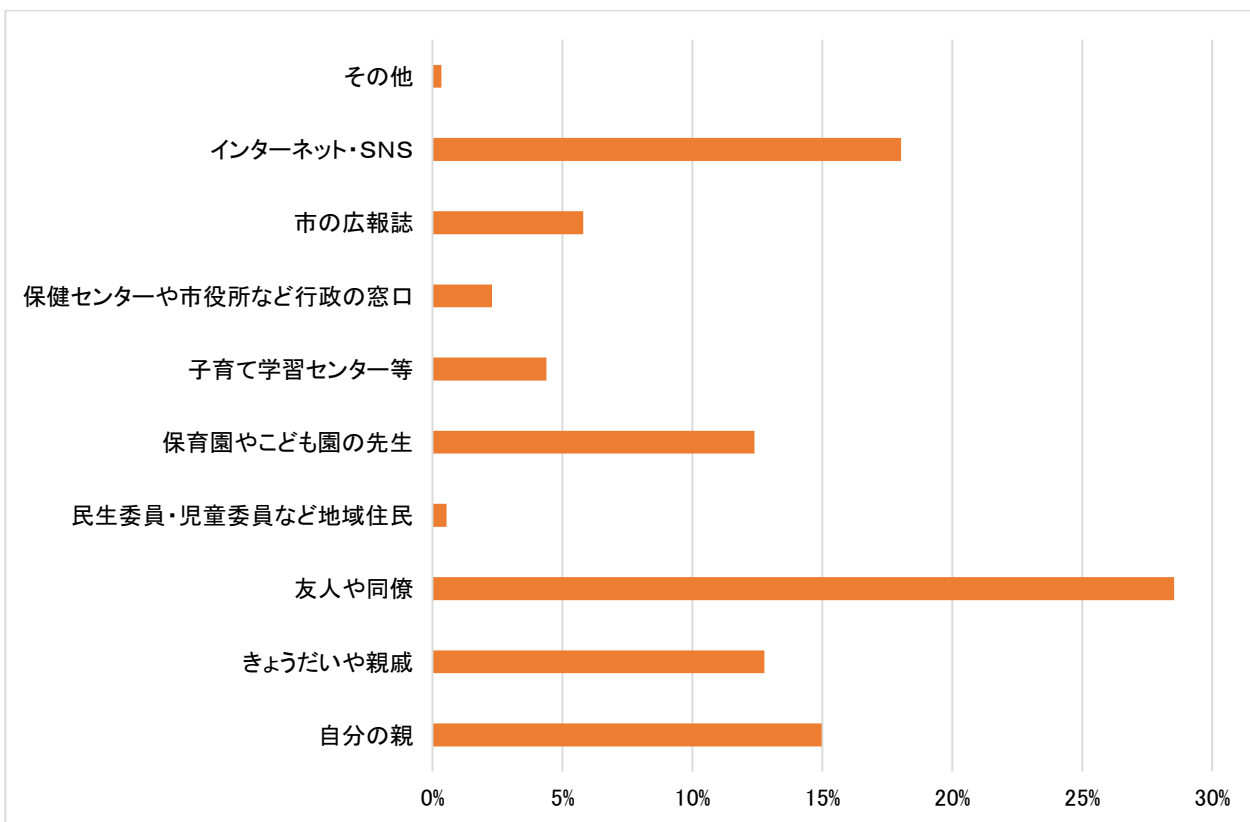
- どのように使っているかで最も多いのは「少しでも貯金に回すようにしている」が約 50%で、「計画的には使えず、次の支給月には手当がなくなっている」も約 22%あります。



	1回の支給ごとに手当を4等分し月々の家計に繰り入れて使っている	月々ではなく年単位で必要となる費用を考えて計画的に使っている	月々の支払い期限を待ってもらい手当の支給月にまとめて支払っている	計画的には使えず、次の支給月には手当がなくなっている	少しでも貯金に回すようにしている
回答数	28	22	6	44	101
回答率	14%	11%	3%	22%	50%

(5) 育児に関する情報の入手方法

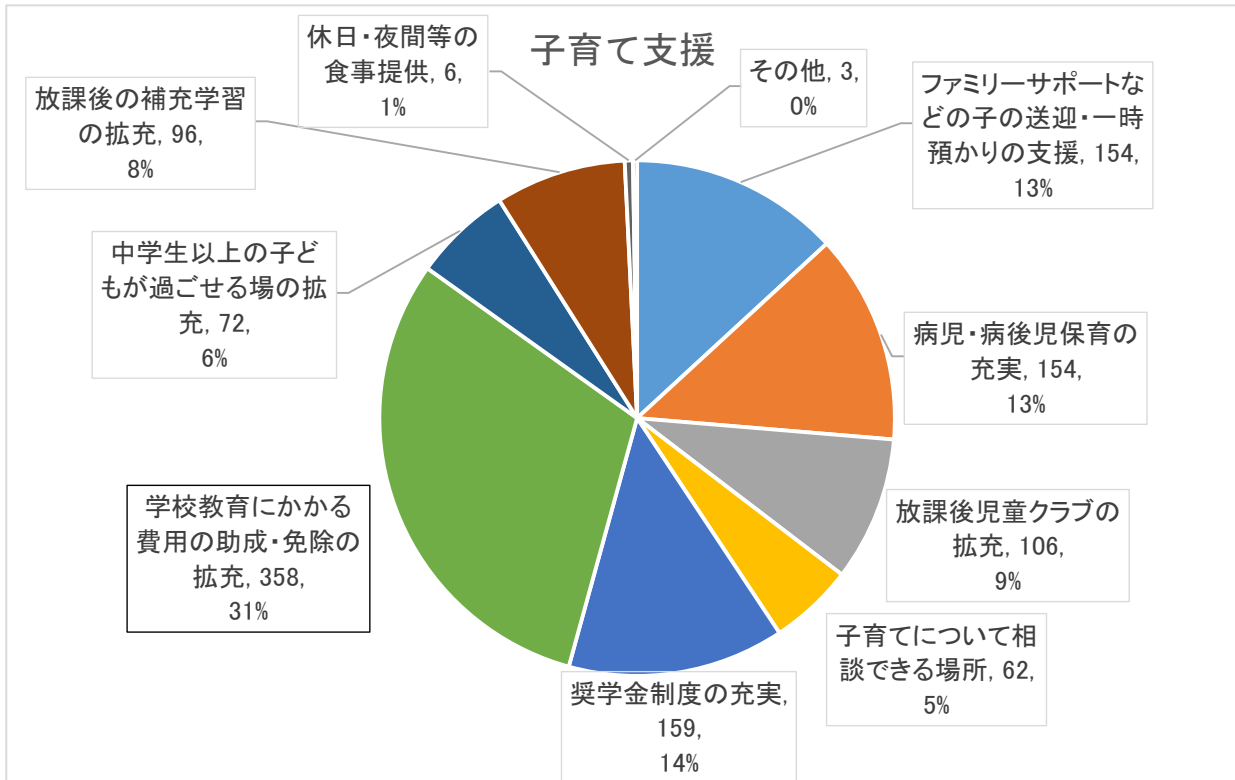
- ・育児に関する情報の入手方法で最も多かったのが「友人や同僚」で約 29%、次に「インターネット・SNS」で約 18%、「自分の親」約 15%、「きょうだいや親戚」約 13%、「保育園やこども園の先生」約 12%の順となっています。



	自分の親	きょうだいや親戚	友人や同僚	民生委員・児童委員など地域住民	保育園やこども園の先生	子育て学習センター等	保健センターや市役所など行政の窓口	市の広報誌	インターネット・SNS	その他
回答数	393	335	749	14	325	115	60	152	473	9
回答率	15%	13%	29%	1%	12%	4%	2%	6%	18%	0%

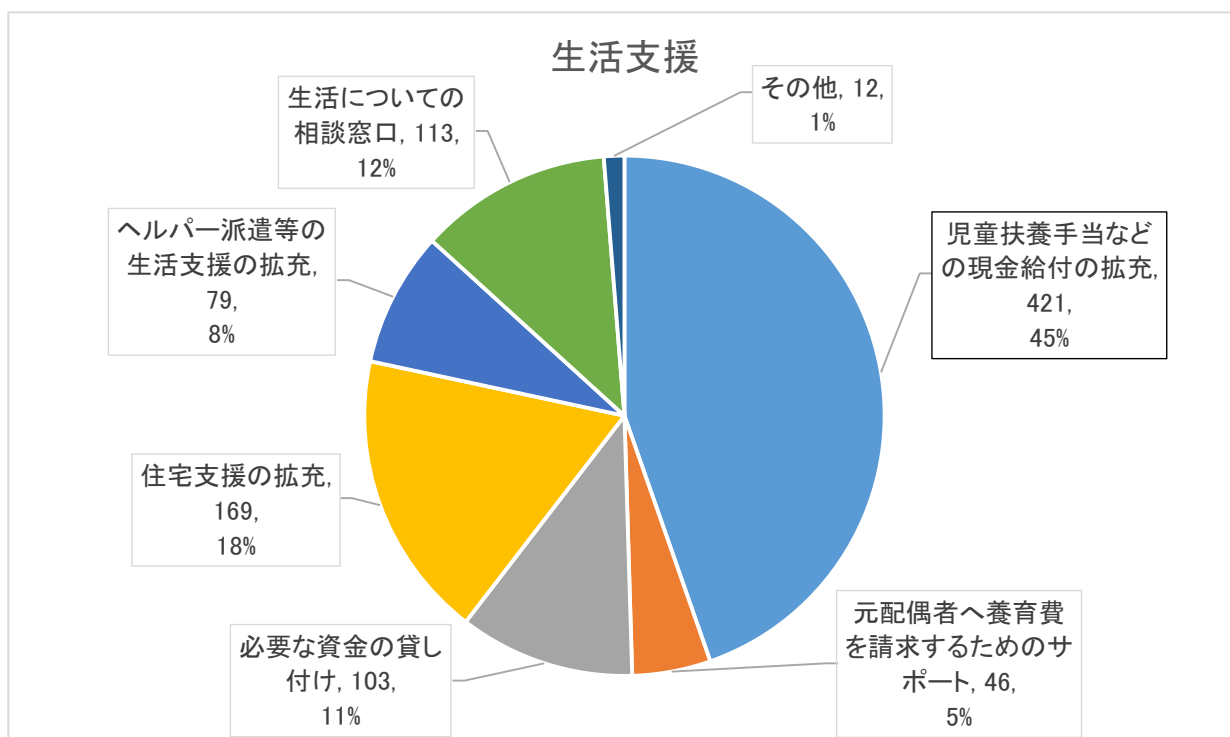
(6-1)子育て支援についてこれから支援を拡充すべき（必要）と思う制度

- ・子育て支援について支援を拡充すべきと思う制度で最も必要だと思うものは、「学校教育にかかる費用の助成・免除の拡充」で約31%、次に「奨学金制度の充実」が約14%、「ファミリーサポートなどの子の送迎・一時預かりの支援」が約13%、「病児・病後児保育の充実」が約13%と続いています。



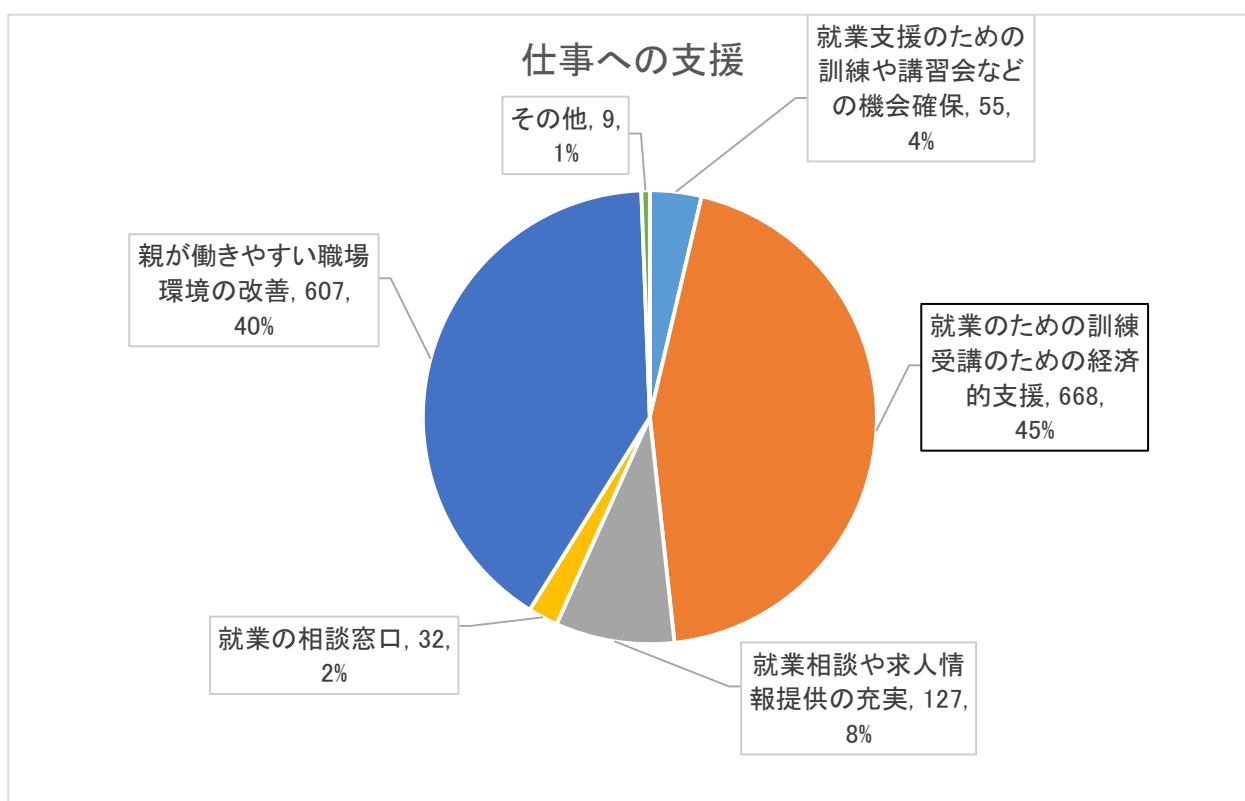
(6-2)生活支援についてこれから支援を拡充すべき（必要）と思う制度

- ・生活の支援について支援を拡充すべきと思う制度で最も必要だと思うものは、「児童扶養手当などの現金給付の拡充」で約45%、「住宅支援の拡充」が約18%、「生活についての相談窓口」が約12%、「必要な資金の貸し付け」が約11%となっています。



(6-3)仕事への支援についてこれから支援を拡充すべき（必要）と思う制度

- ・仕事の支援について支援を拡充すべきと思う制度で最も必要だと思うものは「就業のための訓練受講のための経済的支援」で約45%で、次に「親が働きやすい職場環境の改善」が約40%となっています。



6 自由記述（13種類に分けて、件数、代表的な意見）

1. 子育て支援関係（32件）

「子ども手当の額を増やしてほしい」、「少子化に対する政策が少ないように感じる。子どもはたくさんほしいが経済的に難しいのでもう少し支援があればと感じる」、「不妊治療に関する助成の拡大」、「仕組み制度の前に、一人一人が相手のことを思いやる心を持ち、どうすればよいのか考える努力を怠らないことが必要ではないか」

2. 教育行政関係（39件）

「子どもが望む教育が受けられるように学費等の支援をお願いしたい」、「国際交流の機会を与えてほしい」、「すべての子どもが、大学等の高等教育まで、等しく平等に学べるよう、金銭的支援と学習面での支援」、「マインホールで行われているサードプレイズを今後も続けてほしい」

3. 進学、学校関係（56件）

「先生のレベルを上げてほしい」、「子の学力低下が心配」、「但馬は高校が少ない。電車、バスで通学する子のための援助が欲しい」、「タブレット学習の普及を早め、教職員の負担を減らし、子どもたちと心の余裕をもって過ごせる学校環境づくり、子どもの可能性や個性の拡大が今後の日本の教育に大切」

4. こども園関係（11件）

「土曜日にも気楽に預けれる環境」、「近くの子ども園に一時預かりができるのであればすぐにも利用したい」、「こども園、学童クラブ等の預かり時間の延長希望」

5. 学童クラブ関係（10件）

「学童クラブの利用について利用条件が厳しすぎる。警報が出た時の休校は急に仕事を休まないといけないので困る」、「なぜ学童の先生には異動がないのか」、「学童の質を上げてほしい」

6. 子育て学習センター関係（8件）

「開いている時間がなぜ午前中だけなのか。できれば毎日朝から夕方まで開けてほしい」、「月に2～3回だけでも0歳児限定の広場を開けてほしい」、「開館時間が遅いのでもう少し早くしてほしい」

7. 遊び場関係（19件）

「子どもがゲームじゃなく外で遊べる場をもっと作ってほしい」、「遊べる時期は外で元気に遊ぶことが将来のためにも大事で、外遊びで学ぶことがたくさんあり、これからの子どもたちにも経験してほしい」、「子どもの居場所を確保することが大変だったり、スポーツクラブに所属しても親だけでは対応できない時に困る。学童などで勉強やスポーツを見てもらえないか」、「子どもたちが安心してのびのび遊べる場所がもう少し必要。雨の日や暑い日寒い日など関係なく遊べる室内の場で学習など学べると親も子もうれしい。雨の日などに行くところがない」

8. 公園、遊具整備関係（12件）

「子どもたちが安心して遊ぶことのできる公園が少ないので作ってほしい」、「遊具が錆びている公園しか家の周りにはないので安心して子どもを遊ばせることができない」、「朝来市の子育て支援サービ

スは子どものいない or 子育てを積極的に行っていない方が考えられたもののように思う。公園1つにしてもまともな遊具も整備も不十分なものしかないし、子育て学習センターなどの活動を親が知る機会もほとんどない、「公園が少なすぎる。子どもの遊ぶ場所がない。公園があっても規模は小さく遊具が少ない」、「充実している公園を増やしてほしい」

9. ひとり親支援関係 (12 件)

「児童扶養手当の不正受給をしている人や、母子家庭のメンタルの調査を実施してほしい」、「未婚のひとり親家庭なので税金などの面で不遇されているので考えてほしい」、「低所得、ひとり親世帯の子に対して、資格取得にあたっての援助、支援等必要」、「児童扶養手当をマックスでもらおうと考える働く時間を短くしている方がいる。働けるのに働けないという人が増えないように制度を見直してほしい」

10. 医療、病院関係 (22 件)

「医療費の無償など、とても助かる面があるが、無償ゆえ、ドラッグストア感覚で受診する人も多く、本当に必要な人が受診しにくいという現状がある。薬代だけでも対価を支払うような仕組みにするほうがいいのではないか」、「朝来市は妊婦検診の助成であったり医療費補助だったりとても恵まれていると感じている」、「子どもの医療費を高校卒業まで無料にしてもらいたい」、「近くに小児外来がないのが困る」

11. 職場環境関係 (28 件)

「小さい子がいる親は、頻繁な子の病気で仕事を休むことが多いが、職場の理解が得られないことがある。肩身の狭い思いをすることがあり落ち込むことがある」、「仕事場の確保(優良企業の誘致)」、「子の病気や園の行事等で仕事を休む時など職場の理解が得られない。職場の管理職の人たちへのモラル教育のようなことを実施してほしい」、「年をとって(40代後半)からも学べて働いていけるような環境」、「女性が子育てのため、一度退職しても再び正採用になれるように道を備えてほしい」

12. 障害・相談・ケア関係 (8 件)

「子どもの明るい未来の支援を考えるなら、健常な子、ひとり親の子、障害のある子などすべてを対象に考えるべき」、「放課後デイサービスをもっとたくさん作ってもらいたい」、「大人のカウンセリング環境が不十分」、「親の相談にしっかり乗れる相談員を複数人配置し、きめ細かい支援ができる体制を整えてほしい」

13. その他 (24 件)

「PTAのあり方」、「アンケートの内容、アンケートを受けての制度設営について」、「タバコの受動喫煙被害にあうことがないような対策・周知を」、「ファミリーサポート制度」